

第1回 小出地区小和田地区意見交換会 議事録

日時 平成31年3月14日(水) 14:00~15:30 市民自治推進課 会議室

出席者

小出地区：永澤まち協副会長、五十嵐、齋藤

小和田地区：雫石部会長、新倉まち協会長、市野、中川

行政(市)：市民自治推進課 窪田副主査 姫野主任

議事

1. 各地区の考え、状況説明

小和田地区雫石部会長より

茅ヶ崎市は自転車のまちと謳っている。確かに南部(海側)はサイクリングロードも整備されているが、北部(山側)は未整備の部分が多い。茅ヶ崎市民が身近に楽しめるものを小出地区と連携し考えていくことで、北部地域を盛りあげ発展につなげていきたい。

小和田地区市野委員より

小和田地区では過去2回、小出地区の七福神巡りを交通安全部会として行っている。県内七福神巡りを調べたところ、多くの地区が企画していることがわかった(資料参照)。記念品は色紙や手ぬぐいのほか小さな御神体(人形)などもあり、また御朱印も凝った作りになっているところもある。小出地区の七福神巡りは巡行距離も手ごろであるので、順路案内の整備などして近頃のブームに乗れば発展する可能性は大いにある。他市町では県や市のサポートがあり、ホームページから情報を得られるところも多い。各お寺の情報を載せるなど、あらかじめの下調べを可能にすることで、より楽しく巡ることができ、参加者が増えるのではないかと考える。

傾向としてイベントを開催する時は、縁起が良いことから、1月7日に実施されることが多い。

小出地区永澤副会長

小出地区は約40年前には商店街もあり、活気があって住民も四季折々に七福神巡りを楽しんでいた。現在も自然豊かで景観みどり課の推奨するマスタープラン等もあるが、実際のところは過疎に悩んでいる。昔から地元祭りと呼んでいたものは現在では大岡越前祭として行い、産業振興課から予算も出ている。里山公園でのレインボーフェスティバルでも地域の代表が主導し盛況を得ている。また小出川沿いの彼岸花も整備し、彼岸花まつりを行っている。地域の活性化につながることは前向きに検討したい。

2. 相州小出「七福神巡り」のメジャー化に向けて(資料参照)

<出席者からの意見>

- ・手ぬぐいが高すぎる。半額にし、さらに御朱印を集めれば半額になるなど特典を設けるべき。
- ・手ぬぐいのデザインもお寺の名前を入れるなど、再考してほしい。
- ・各お寺は協力的と思われるが、負担はかけられない。休憩所設営等はまち協側で行うべき。
- ・長期間の開催は運営側への負担も大きい。試行として1月7日限定で行ってみてはどうか。
- ・拠点として里山公園の協力も得られると思う。
- ・里山公園行であれば路線バスが運行している。

- ・里山公園であれば各地区まち協から出店ブースを出すことも可能で、イベントとして盛りあげることができる。
- ・開催日限定でレンタサイクルを置いてはどうか。
- ・案内板や標識が必須である。香川地区の計画している標識と統一してはどうか。（担当は景観みどり課）
- ・市の事業としてやってもらえるのか。（担当は市観光協会及び産業振興課）
- ・統一した幟旗をまち協で用意する必要がある。
- ・地域の自転車に精通した人にアドバイスをいただきたい。
- ・市広報紙で七福神巡りの周知ができないか。

<まとめ>

- ・里山公園に設置する案内板の作成は、小出まち協が事業として取り組む。
- ・標識に関しては香川地区の標識の仕様を参考にする方向で検討する。
- ・七福神巡りマップを作る（徒歩用とサイクリング用の2種類）。
- ・各地区まち協に出店協力を働きかける。
- ・観光協会に手ぬぐいのデザイン及び価格の再考をお願いする。
- ・2020年1月7日開催に向け今後も打ち合わせを重ねていく。

3. 小出地区からの質問

- ・部会への継続的な担い手についてはどの地区も苦慮している課題だが、小和田地区は比較的多くのPTAが参加し、任期後も継続している委員もいる。PTAも複数人で分担し、各々が協力できる分野のすそ野を広げる努力が必要であり、地域もPTAに対する理解が必要と考える。楽しい企画ややりがいのある事業があれば継続しやすい。
- ・「小和田おもいでマップ」は後日、3部ほど小出コミセンにお届けします。
- ・小出地区まち協の会議を、視察を兼ねてYU-ZUルームで行う（4月1日18時～）。

以上

次回 4月11日（木） 14時～ 市民自治推進課 会議室

- ・初めての意見交換会はとても有意義な時間でした。

